



栗田工業株式会社

2022年3月期 第2四半期  
**決算説明会**

---

(証券コード：6370)

2021年11月1日

---

<b>1</b>	<b>2022年3月期 上期実績</b>	p 1 -10
<b>2</b>	<b>2022年3月期 通期見通し</b>	p11-20
<b>3</b>	<b>重点施策の進捗</b>	p21-25

# 1 | 2022年3月期 上期実績

---

# 業績概況

(単位：億円)		2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 (5/6発表)	
受	注	高	1,275	1,478	+ 15.9%	1,410
売	上	高	1,310	1,352	+ 3.2%	1,280
事	業	利	136	149	+ 9.4%	140
そ	の	他	24	△ 1	—	△ 5
の	の	収				
支						
営	業	利	160	147	△ 7.9%	135
益						
税	引	前	154	112	△ 27.5%	131
四	半	期				
利						
益						
親	会	社	106	57	△ 46.2%	86
の	所	有				
者	に	帰				
属	す	る				
四	半	期				
利						
益						
基	本	的	94.44	50.78	△ 46.2%	76.55
1	株	当				
た	り	四				
半	期	利				
益						
(	円)					
為			106.9	109.8		106.0
替	USD	(				
レ	円)					
			121.3	130.9		124.0
	EUR	(				
	円)					
ト			15.3	17.0		16.0
	CNY	(				
	円)					

- 中東とカナダの水処理薬品会社の新規連結に加え、海外の水処理薬品事業と電子産業向け水処理装置事業で受注が増加。
- ペンタゴン・テクノロジーズ社の将来の株式取得見込み価額の現在価値が増加したことに伴い、金融費用36億円を計上。

注) 前期に新規連結したペンタゴン・テクノロジーズ社のPPA確定により、2021年3月期上期実績を遡及修正しています。

# セグメント別の実績

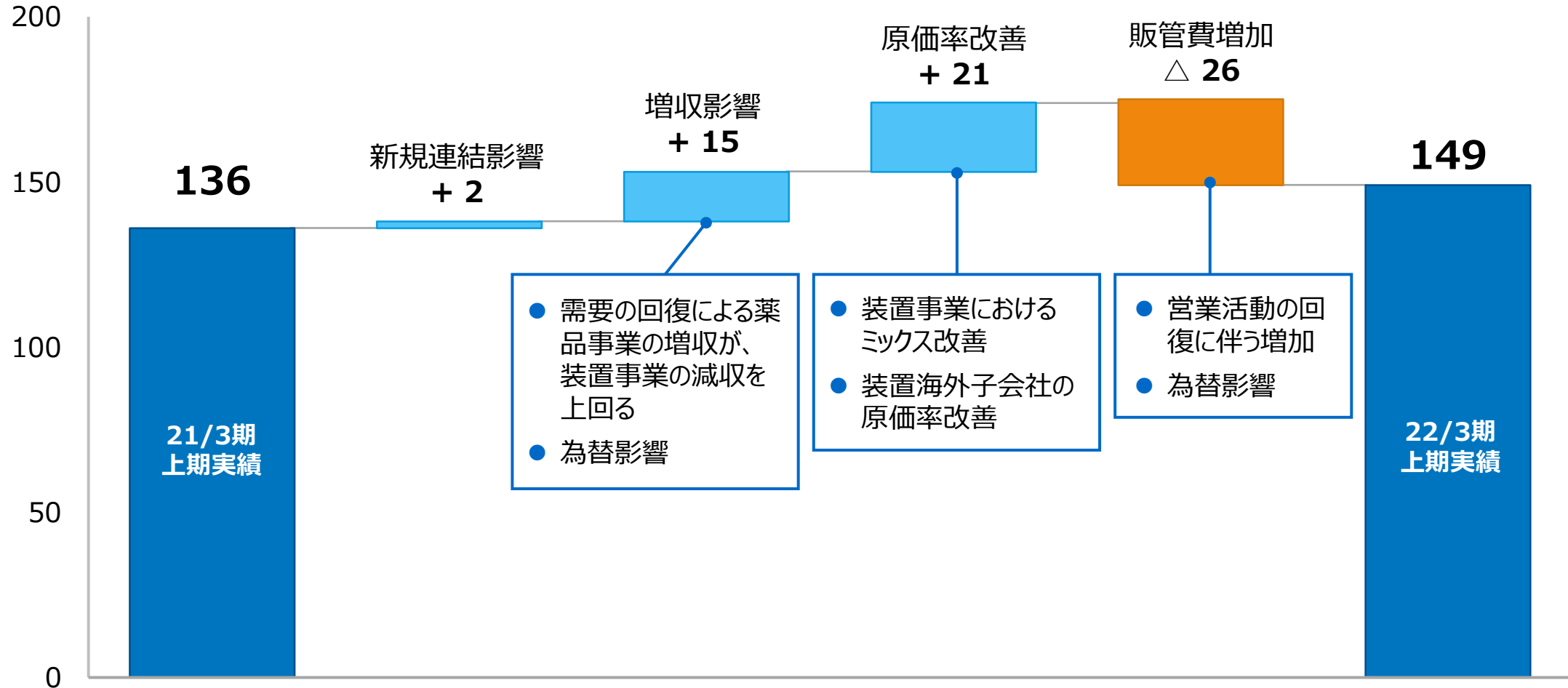
(単位：億円)		2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 (5/6発表)
全社	受注高	1,275	1,478	+ 203	1,410
	売上高	1,310	1,352	+ 42	1,280
	事業利益	136	149	+ 13	140
	事業利益率	10.4%	11.0%	+ 0.6pp	10.9%
	営業利益	160	147	△ 13	135
水処理薬品 事業	受注高	524	587	+ 63	563
	売上高	515	581	+ 66	560
	事業利益	64	75	+ 11	81
	事業利益率	12.5%	12.9%	+ 0.4pp	14.5%
	営業利益	64	73	+ 9	78
水処理装置 事業	受注高	752	891	+ 140	847
	売上高	795	771	△ 24	720
	事業利益	72	74	+ 2	59
	事業利益率	9.0%	9.6%	+ 0.5pp	8.2%
	営業利益	97	75	△ 22	57

- 水処理薬品事業は主に海外での薬品需要の回復により増収増益。
- 水処理装置事業の受注高は、海外装置と国内外メンテナンスの受注増により増加。
- 水処理装置事業の売上高は、海外装置や国内一般産業向けの減少により、減収。
- 水処理装置事業の事業利益は、減収影響と販管費増を原価率の改善がカバーし増益。

注) 前期に新規連結したペンタゴン・テクノロジーズ社のPPA確定により、2021年3月期上期実績を遡及修正しています。

# 事業利益の増減分析（前年同期比）

(単位：億円)



(単位：億円)	2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 (5/6発表)
<b>受注高</b>	<b>524</b>	<b>587</b>	<b>+ 63</b>	<b>563</b>
国内	221	223	+ 2	226
海外	303	364	+ 61	337
<b>売上高</b>	<b>515</b>	<b>581</b>	<b>+ 66</b>	<b>560</b>
国内	212	217	+ 6	223
海外	304	364	+ 60	337
<b>事業利益</b>	<b>64</b>	<b>75</b>	<b>+ 11</b>	<b>81</b>
<b>事業利益率</b>	<b>12.5%</b>	<b>12.9%</b>	<b>+ 0.4pp</b>	<b>14.5%</b>
<b>営業利益</b>	<b>64</b>	<b>73</b>	<b>+ 9</b>	<b>78</b>

- クリタ・アクアケミー社とキーテック・ウォーター・マネジメント社を新規連結。
- 国内は、生産活動の回復による薬品需要の戻りはあるも、一部業種ではコロナ影響が残る。
- 海外は、新規連結影響や円安の進行による増加に加え、薬品需要が回復。
- 事業利益は、増収効果が販管費増加と原価率悪化を上回り、増益。

## 海外地域別売上高

(単位：億円)	2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 (5/6発表)
アジア	109	128	+ 19	122
北南米	105	116	+ 11	113
EMEA	90	120	+ 30	102
<b>合計</b>	<b>304</b>	<b>364</b>	<b>+ 60</b>	<b>337</b>

### 増減要因（億円）

オーガニック増減	+ 17
為替影響	+ 22
新規連結	+ 21

# 水処理装置事業（国内電子産業向け）



（単位：億円）	2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 (5/6発表)
<b>受注高</b>	<b>275</b>	<b>326</b>	<b>+ 50</b>	<b>296</b>
装置	16	33	+ 16	30
メンテナンス	74	91	+ 17	76
超純水供給事業	141	153	+ 12	149
精密洗浄	43	48	+ 4	42
<b>売上高</b>	<b>291</b>	<b>305</b>	<b>+ 14</b>	<b>296</b>
装置	24	26	+ 2	25
メンテナンス	82	78	△ 4	81
超純水供給事業	141	153	+ 12	149
精密洗浄	43	48	+ 4	42

- 装置の受注高は大型案件の受注により増加。
- メンテナンスは、顧客工場の堅調な稼働を背景に受注高は好調に推移。売上高は前年同期の大型案件がなくなり減少。
- 超純水供給事業は、前期に供給を開始した案件の寄与により受注高・売上高ともに増加。
- 精密洗浄は、新規案件の獲得により受注高・売上高ともに増加し、計画を上回る進捗。



# 水処理装置事業（国内一般産業向け）



（単位：億円）	2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 (5/6発表)
<b>受注高</b>	<b>262</b>	<b>288</b>	<b>+ 26</b>	<b>326</b>
エネルギー・インフラ	229	251	+ 22	272
土壌浄化	19	23	+ 3	42
その他	13	15	+ 1	12
<b>売上高</b>	<b>272</b>	<b>233</b>	<b>△ 39</b>	<b>221</b>
エネルギー・インフラ	230	201	△ 29	182
土壌浄化	29	18	△ 12	27
その他	13	14	+ 1	12

- エネルギー・インフラの受注高は、一般産業向けメンテナンスの需要回復や、一般産業向け装置の大型案件の受注により増加。
- エネルギー・インフラの売上高は、一般産業向けメンテナンスで増加も、電力向け装置と一般産業向け装置が減少し、減収。
- 土壌浄化は受注高は増加も、売上高は前年同期に大型案件の売上計上があったことから減少。期初想定に対し、浄化需要の回復に遅れ。

# 水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 （5/6発表）
<b>受注高</b>	<b>214</b>	<b>278</b>	<b>+ 63</b>	<b>225</b>
装置	90	116	+ 26	93
メンテナンス	54	75	+ 21	61
超純水供給事業	15	16	+ 1	15
精密洗浄	55	71	+ 16	56
<b>売上高</b>	<b>232</b>	<b>234</b>	<b>+ 2</b>	<b>203</b>
装置	114	84	△ 29	81
メンテナンス	49	63	+ 14	52
超純水供給事業	15	16	+ 1	15
精密洗浄	55	71	+ 16	56

- 電子産業における旺盛な投資を背景に、東アジアにおける受注は期初計画を上回る進捗。
- 中国では、受注高は大型案件の受注により前年同期比で増加し、売上高も増加。
- 韓国では、受注高は大型案件の受注により増加も、売上高は受注済み案件の売上計上の一巡により減少。
- 台湾では、受注高は増加も、売上高は受注済み案件の売上計上の一巡により減少。
- 米国では、精密洗浄事業が好調に推移。

## 地域別売上高

（単位：億円）	2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 （5/6発表）
アジア	132	129	△ 4	115
北南米	100	105	+ 5	88
<b>合計</b>	<b>232</b>	<b>234</b>	<b>+ 2</b>	<b>203</b>

### 増減要因（億円）

オーガニック増減	△ 11
為替影響	+ 13

# サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2020/9期	2021/9期	前年同期比	期初計画 (5/6発表)
水処理薬品事業	515	581	+ 66	560
水処理装置事業	603	630	+ 27	587
超純水供給事業	156	170	+ 14	164
国内精密洗浄	43	48	+ 4	42
海外精密洗浄	55	71	+ 16	56
土壌浄化	29	18	△ 12	27
国内メンテナンス	260	250	△ 9	236
海外メンテナンス	49	63	+ 14	52
その他	11	11	+ 0	12
<b>合計</b>	<b>1,118</b>	<b>1,211</b>	<b>+ 93</b>	<b>1,147</b>

- 水処理薬品事業は、海外での薬品需要の回復により増収。
- 超純水供給事業は、前期に水供給を開始した案件の寄与により増収。
- 精密洗浄は、国内外ともに堅調に推移。
- 土壌浄化は、大型案件の売上計上が一巡。
- メンテナンスは、国内では、エンジニアリング洗浄、官公需、電子産業向けで減少も、海外では増加。

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2020/9期	2021/9期	前年同期比
<b>設備投資額（有形*）</b>	<b>91</b>	<b>288</b>	<b>+ 196</b>
水処理薬品事業	19	61	+ 41
水処理装置事業	71	227	+ 155
<b>減価償却費（有形*）</b>	<b>88</b>	<b>97</b>	<b>+ 10</b>
水処理薬品事業	20	22	+ 2
水処理装置事業	68	75	+ 7
<b>研究開発費</b>	<b>26</b>	<b>25</b>	<b>△ 0</b>
水処理薬品事業	9	8	△ 1
水処理装置事業	17	17	+ 1

\* 使用権資産含む。

- 超純水供給事業の設備投資額は113億円で、前年同期に比べ増加。
- 上記以外では、主に国内の新開発拠点向けの投資により増加。
- 設備投資額、減価償却費、研究開発費ともに計画に沿った進捗。

# 財政状態

(単位：億円)	2021年3月末	2021年9月末	増減
現金及び現金同等物	622	458	△ 164
その他流動資産	1,143	1,166	+ 23
<b>流動資産合計</b>	<b>1,765</b>	<b>1,624</b>	<b>△ 141</b>
有形固定資産	1,176	1,378	+ 202
のれん	556	588	+ 32
その他非流動資産	752	744	△ 9
<b>非流動資産合計</b>	<b>2,484</b>	<b>2,710</b>	<b>+ 225</b>
<b>資産合計</b>	<b>4,249</b>	<b>4,334</b>	<b>+ 85</b>
流動負債	750	928	+ 178
非流動負債	921	798	△ 124
<b>負債合計</b>	<b>1,671</b>	<b>1,725</b>	<b>+ 55</b>
親会社の所有者に帰属する持分	2,531	2,554	+ 24
非支配持分	47	54	+ 7
<b>資本合計</b>	<b>2,578</b>	<b>2,608</b>	<b>+ 30</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>4,249</b>	<b>4,334</b>	<b>+ 85</b>

- 超純水供給事業用設備の取得や新開発拠点の建設に伴い有形固定資産が増加。
- ペンタゴン・テクノロジーズ社の株式追加取得に係る負債を非流動負債から流動負債に振り替え。将来の取得価格の公正価値の見直しにより、同負債額が増加。
- クリタ・アクアケミー社とキーテック社の連結子会社化により、のれんが増加。

## 2 | 2022年3月期 通期見通し

---

- 国内や東南アジアは景気回復に一部弱さが見られるも、期末にかけて回復を見込む。
- 旺盛な半導体需要を背景に、東アジアや米国において堅調な設備投資や工場稼働が継続。
- 半導体不足の影響が自動車など一部業種の工場稼働に影響。
- グローバルに薬品の原材料価格が高騰。

# 業績見通しの概要

(単位：億円)		2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
受	注 高	2,623	2,940	+ 12.1%	2,800
売	上 高	2,677	2,890	+ 7.9%	2,760
事	業 利 益	295	330	+ 12.0%	330
そ	の 他 の 収 支	21	△ 10	—	△ 10
営	業 利 益	315	320	+ 1.5%	320
税	引 前 利 益	292	281	△ 3.6%	313
親会社の所有者に帰属する 当期利益		191	180	△ 5.7%	211
基本的1株当たり当期利益 (円)		169.94	160.19	△ 5.7%	187.82
為 替 レ ト	USD (円)	106.1	110.0		106.0
	EUR (円)	123.7	131.0		124.0
	CNY (円)	15.7	17.0		16.0

- 受注高・売上高は上期までの進捗を踏まえ上方修正も、事業利益は販管費増や原材料価格高騰の影響を反映し据え置き。
- 税引前利益の修正には、ペンタゴン・テクノロジーズ社の将来取得予定株式の公正価値評価見直しに係る金融費用の増加を反映。



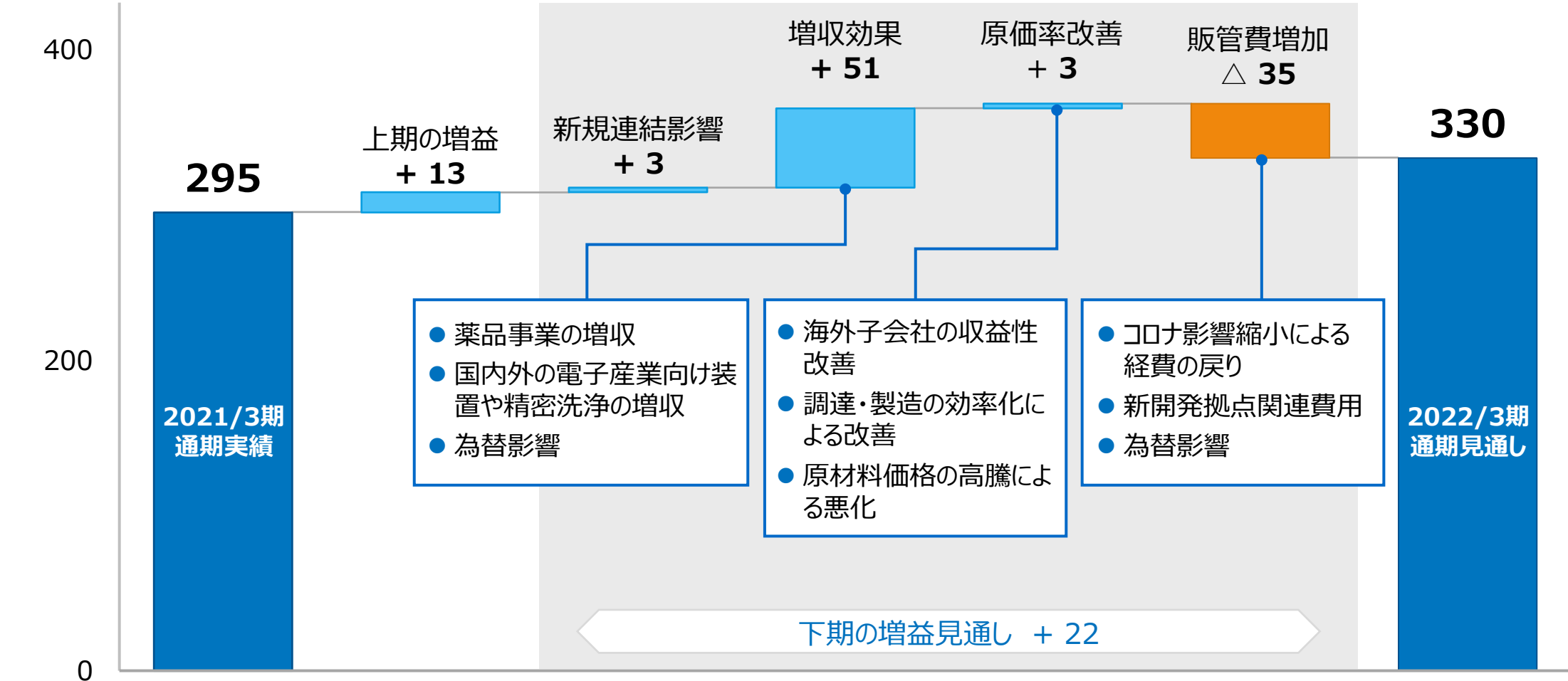
# セグメント別の見通し

(単位：億円)		2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
全社	受注高	2,623	2,940	+ 317	2,800
	売上高	2,677	2,890	+ 213	2,760
	事業利益	295	330	+ 35	330
	事業利益率	11.0%	11.4%	+ 0.4pp	12.0%
	営業利益	315	320	+ 5	320
水処理薬品 事業	受注高	1,036	1,153	+ 117	1,121
	売上高	1,032	1,152	+ 120	1,119
	事業利益	123	137	+ 14	154
	事業利益率	11.9%	11.9%	△ 0.0pp	13.8%
	営業利益	118	131	+ 13	148
水処理装置 事業	受注高	1,588	1,787	+ 199	1,679
	売上高	1,645	1,738	+ 93	1,641
	事業利益	171	193	+ 22	176
	事業利益率	10.4%	11.1%	+ 0.7pp	10.7%
	営業利益	196	189	△ 7	172

- 水処理薬品事業の下期の受注高・売上高は、為替影響を除けば、ほぼ期初計画どおり。
- 水処理薬品事業の下期の事業利益は、原材料価格の高騰を反映し下方修正。
- 水処理装置事業の下期の受注高・売上高は、上期の進捗を踏まえ電子産業向けで上方修正。
- 水処理装置事業の下期の事業利益は、増収効果が販管費増をカバーし、期初計画を上回る見通し。

# 下期見通し事業利益の増減要因 (前年同期比)

(単位：億円)



(単位：億円)	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
<b>受注高</b>	<b>1,036</b>	<b>1,153</b>	<b>+ 117</b>	<b>1,121</b>
国内	426	439	+ 13	446
海外	610	714	+ 104	675
<b>売上高</b>	<b>1,032</b>	<b>1,152</b>	<b>+ 120</b>	<b>1,119</b>
国内	422	436	+ 14	444
海外	610	716	+ 106	675
<b>事業利益</b>	<b>123</b>	<b>137</b>	<b>+ 14</b>	<b>154</b>
<b>事業利益率</b>	<b>11.9%</b>	<b>11.9%</b>	$\Delta$ <b>0.0pp</b>	<b>13.8%</b>
<b>営業利益</b>	<b>118</b>	<b>131</b>	<b>+ 13</b>	<b>148</b>

- 受注高・売上高は、上期までの需要の回復状況を踏まえ、国内は下方修正、海外は上方修正。
- 海外の修正には為替レートの見直しに伴う増加を含む。
- 事業利益は、原材料価格の高騰による原価率の悪化を織り込み下方修正。

## 海外地域別売上高

(単位：億円)	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
アジア	225	258	+ 34	244
北南米	199	227	+ 28	223
EMEA	187	231	+ 44	207
<b>合計</b>	<b>610</b>	<b>716</b>	<b>+ 106</b>	<b>675</b>

### 増減要因（億円）

オーガニック増減	+ 32
為替影響	+ 35
新規連結	+ 38

# 水処理装置事業（国内電子産業向け）



（単位：億円）	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
<b>受注高</b>	<b>604</b>	<b>629</b>	<b>+ 25</b>	<b>616</b>
装置	66	56	△ 9	49
メンテナンス	170	174	+ 4	181
超純水供給事業	281	306	+ 24	301
精密洗浄	87	93	+ 6	85
<b>売上高</b>	<b>589</b>	<b>642</b>	<b>+ 52</b>	<b>624</b>
装置	57	70	+ 13	66
メンテナンス	165	174	+ 9	172
超純水供給事業	281	306	+ 24	301
精密洗浄	86	92	+ 7	85

- 顧客の旺盛な設備投資や高い工場稼働率は下期も継続する前提。
- メンテナンスの受注高を除き、各事業で受注高・売上高ともに上方修正。

# 水処理装置事業（国内一般産業向け）



（単位：億円）	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
<b>受注高</b>	<b>538</b>	<b>593</b>	<b>+ 55</b>	<b>617</b>
エネルギー・インフラ	465	504	+ 38	504
土壌浄化	46	69	+ 23	89
その他	27	20	△ 6	24
<b>売上高</b>	<b>602</b>	<b>570</b>	<b>△ 32</b>	<b>590</b>
エネルギー・インフラ	503	488	△ 16	482
土壌浄化	72	59	△ 13	84
その他	27	23	△ 3	24

- 電力向け装置は受注高・売上高ともにほぼ期初計画どおり。
- 一般産業向け装置は、需要の回復を見込み、受注高・売上高ともに若干の上方修正。
- メンテナンスは、一般産業向け、官公需向け、エンジニアリング洗浄ともに、ほぼ期初計画どおり。
- 土壌浄化は上期の需要回復遅れを反映し、下方修正。

# 水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 （5/6発表）
<b>受注高</b>	<b>446</b>	<b>565</b>	<b>+ 119</b>	<b>446</b>
装置	193	255	+ 62	176
メンテナンス	109	134	+ 25	124
超純水供給事業	31	32	+ 2	30
精密洗浄	114	144	+ 31	116
<b>売上高</b>	<b>454</b>	<b>526</b>	<b>+ 72</b>	<b>427</b>
装置	202	219	+ 17	161
メンテナンス	108	131	+ 23	120
超純水供給事業	31	32	+ 2	30
精密洗浄	114	144	+ 31	116

- 電子産業の旺盛な投資を背景に、海外電子産業向けは下期も堅調さが継続する前提。
- 中国は、上期実績を踏まえ、受注高・売上高ともに上方修正。
- 韓国は、下期にも大型案件の受注を見込み、受注高・売上高ともに上方修正。
- 米国は、精密洗浄の見通しを上方修正。

## 地域別売上高

（単位：億円）	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 （5/6発表）
アジア	261	307	+ 47	230
北南米	193	219	+ 26	197
<b>合計</b>	<b>454</b>	<b>526</b>	<b>+ 72</b>	<b>427</b>

### 増減要因（億円）

オーガニック増減	+ 46
為替影響	+ 26

# サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
水処理薬品事業	1,032	1,152	+ 120	1,119
水処理装置事業	1,253	1,358	+ 105	1,335
超純水供給事業	312	338	+ 26	331
国内精密洗浄	86	92	+ 7	85
海外精密洗浄	114	144	+ 31	116
土壌浄化	72	59	△ 13	84
国内メンテナンス	540	570	+ 30	575
海外メンテナンス	108	131	+ 23	120
その他	22	23	+ 2	24
<b>合計</b>	<b>2,285</b>	<b>2,510</b>	<b>+ 225</b>	<b>2,454</b>

- 国内外の精密洗浄や海外メンテナンスの売上高の見通しを上方修正。

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2021/3期 実績	2022/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/6発表)
<b>設備投資額（有形*）</b>	<b>326</b>	<b>634</b>	<b>+ 307</b>	<b>634</b>
<b>減価償却費（有形*）</b>	<b>179</b>	<b>197</b>	<b>+ 18</b>	<b>197</b>
水処理薬品事業	39	41	+ 2	41
水処理装置事業	140	156	+ 16	156
<b>研究開発費</b>	<b>53</b>	<b>52</b>	<b>△ 1</b>	<b>52</b>
水処理薬品事業	17	16	△ 1	16
水処理装置事業	36	37	+ 1	37

\* 使用権資産含む。

- 設備投資額、減価償却費、研究開発費ともに通期見通しは期初計画を据え置き。
- 超純水供給事業向けの設備投資額の見通しも、326億円と期初計画から変更なし。



## 3 | 重点施策の進捗

---

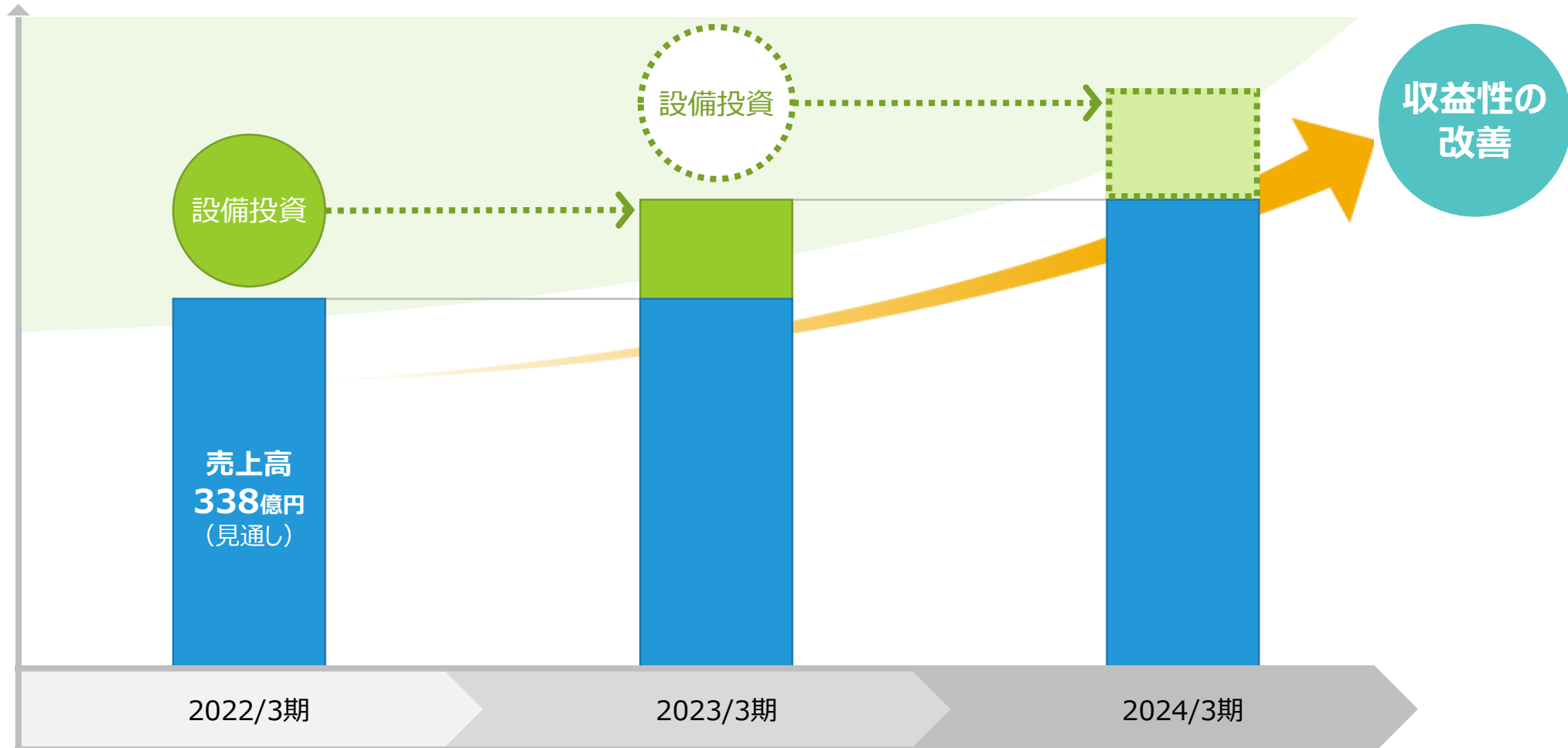
## ビジネスプロセスの変革とビジネスモデルの変容

**1** 収益性の高い事業モデルへのシフト

**2** プラント生産プロセスの再構築

**3** 海外事業の高収益化

## 継続的な設備投資がグループ全体の収益性改善に寄与



## 半導体市場の成長を背景とした事業拡大

グループの収益性改善に貢献

- **ペンタゴン・テクノロジーズ社を連結**

稼働中の半導体・FPD工場の製造装置の部品洗浄



新品装置納入時の洗浄

2021/3期

売上高  
200億円

- 顧客工場の高稼働
- 顧客拠点の新設



クリテックサービス  
(日本)



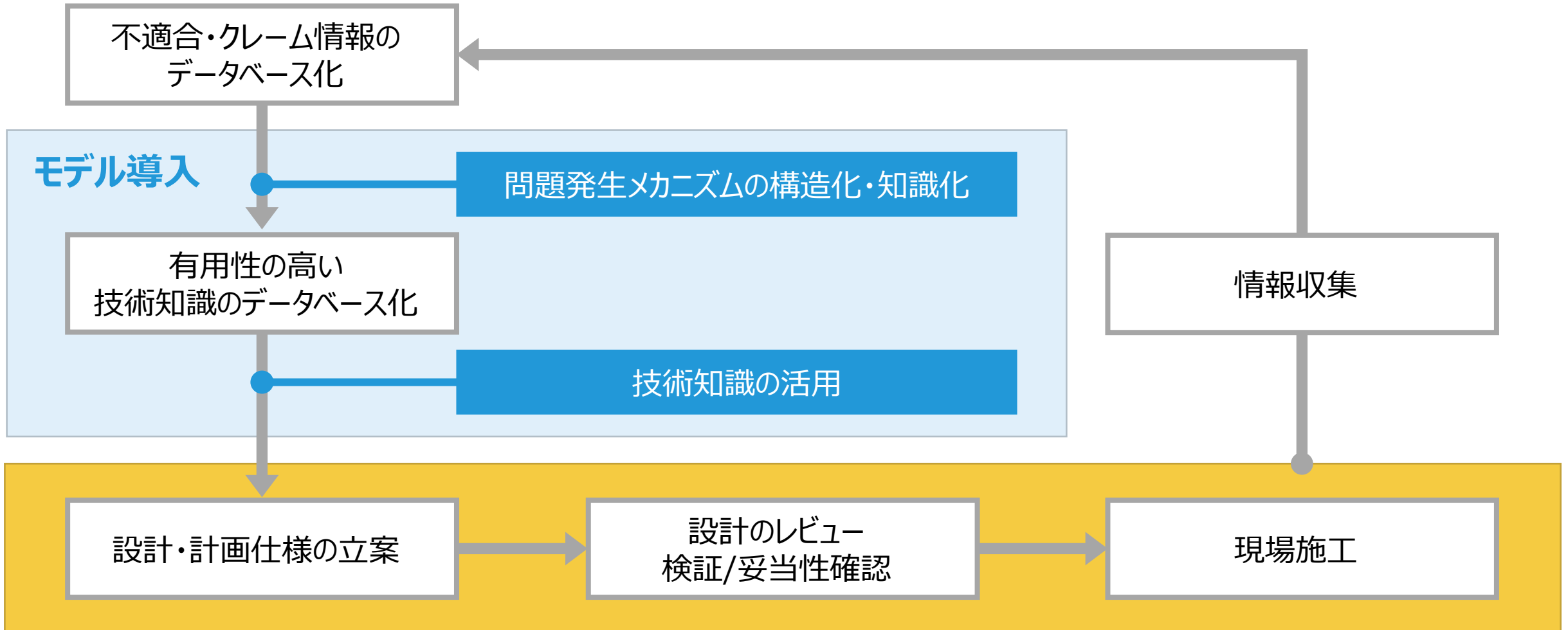
ペンタゴン・テクノロジーズ  
(米国)

2022/3期

売上高  
237億円  
(見通し)

- グローバルに半導体工場の新設が継続
- ペンタゴン・テクノロジーズ社の完全子会社化
- 両社の技術・サービスの活用によるシナジー発揮

## 不適合再発・未然防止モデルの活用による追加原価の抑制



## クリタ・アメリカ社の安定的な収益基盤を確立

### 現状の課題

- 一部領域の需要回復の遅れ
- 統合による製品・機能の重複
- ベストプラクティスの導入遅れ

### 施策

#### 高収益事業の拡大

- 食品・飲料など重点分野へのリソースシフト
- CSVビジネスの展開

#### オペレーションの統合

- 製品ラインナップの最適化
- 生産・物流機能の整備

#### 生産プロセスの効率化

- 当社エンジニアリング手法の導入
- Global Supply Teamの活用

外部環境に左右されにくい事業体制を構築



#### 将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

本資料内で使用している商標（製品、サービス、ロゴ）は、当社または当社に使用を認めた権利者に帰属します。